

第25回 全国街路事業コンクール

優 秀 賞

愛知県 建設部

名古屋鉄道常滑線・河和線 太田川駅付近連続立体交差事業

都 市 名	東海市	事業主体	愛知県
事業概要			
愛知県東海市は、市の中心部を南北に通る名古屋鉄道常滑線・河和線が、市街地を東西に分断するとともに、踏切による慢性的な交通渋滞が発生し、都市の健全な発展の妨げとなっていた。また、太田川駅で常滑線と河和線が分岐しているため、両線の平面交差による低速運転や通過待ちが発生し、平成17年開港の中部国際空港へアクセスする鉄道として、定時性・信頼性の確保が強く望まれていた。			
本事業はこれらの課題を解決するため、先行して施行した1期目の尾張横須賀駅付近、2期目の高横須賀駅付近に続く、3期目の連続立体交差事業として太田川駅付近の鉄道高架化により、渋滞の解消及び東西の一体的なまちづくりを図るとともに、駅部を3層構造として中部国際空港への鉄道アクセスを強化するものである。			
駅周辺では、東海市による土地区画整理事業や市街地再開発事業、民間企業の再開発事業等が本事業と一体的に行われ、今後も大型商業店舗や大学新キャンパスの立地が予定されるなど、東海市の顔として魅力あるまちづくりが進められている。			
○事業延長：約2,800m		○事業規模：踏切除却数6箇所、交差道路数13路線	
○事業費：約393億円		○事業期間：平成10年度～平成23年度	
表彰理由			
本事業により、踏切遮断による交通渋滞の緩和と鉄道アクセスの強化が図られたことが高く評価された。			
また、鉄道で分断された地域を長期的なビジョンで健全な市街地に発展させるため、計画的に基盤整備を行っていることも高い評価を得た。今後は、駅前を中心とした賑わいのある街づくりに期待が寄せられる。			



事業後

事業前